和歌山支部総会・懇親会の報告（2014 年 7 月 13 日実施済）

朝からの雨も上がり明るさが増してきました。和歌山支部を愛する顔が、和歌山県立医大北側の隠れ家のようなレストラン「デサフィナード」に集い始めました。
今回の和歌山支部文化事業のゲストは和歌山県白浜町出身で、県内を拠点に活動中のプロシンガーソングライターの古家学さんです。

11 時より、レストラン二階で三角さん(S57A)の司会の下、24 名の和歌山支部会員による支部総会が始まりました。今回初めての参加の方々も多く、一人ひとり車座に腰を下ろし、お互いの顔を見ながら自己紹介しました。都合で出席できなかった 58 名の会員の方々からは、それぞれの近況報告と心温かいメッセージを寄せていただきました。「両親の介護で日々忙しく残念ながら欠席ですが、盛会を祈ります」という頭が下がるお便りや、「脳梗塞後、リハビリに励んでいます」という力強いお言葉もありました。アメリカをはじめ海外からのお便り等もあり、皆さんのご活躍がうかがい知れました。東京支部・京滋支部・福岡支部・福井支部の支部長さんからも、励ましのお言葉をいただきありがとうございました。

さて一階ホールでは、大学から来ていただいた久保先生・長者事務局長、校友会本部から出席の山田副会長・島谷書記・清滝常任幹事、他支部からは松下兵庫支部長・植松大阪副支部長が、まだかまだかと待っておられました。
そして、11 時 30 分から佐武支部長（S56A）の挨拶と紹介で、”歌とギターの調べ”『地元愛を歌にのせ～古家学ライブ～』・懇親会が始まりました。
総勢 36 名は期待で胸をふくらませ、古家学さんを見つめます。「ここにいる皆さんは、英語ペラペラなんですか？」の質問に、会場には静かな笑いがおきました。





古家学さんの熱唱する『明日の笑顔』の歌詞の一部です。

美しい故郷の山並みと
先人達が作り上げた歴史ある街並み
幸せが詰まった笑顔の日常を
災害は一瞬にして根こそぎ奪っていった
ただたたずんで　無力感にさいなまれ
途方に暮れて目の前の土を握りしめ
でも僕たちは決してあきらめない
生まれ育ったこの街で
大好きな大好きな故郷で
僕らは生きてゆくんだ



各々が 2011 年 3 月の東日本大震災や、同年 8 月の紀伊半島を襲った台風 12 号被害を想い出しながらこの歌を聴きました。会員の何人かは遠くを見つめ、また何人かは目を閉じ想いを馳せました。そして和歌山弁ラップの時には、みんなが大いに笑いました。

お店からサービスのノンアルコールドリンクを片手に、澁谷さん(S38A)の音頭で乾杯の祝杯をあげ、おいしいランチと歓談タイムが始まりました。
娘さんの夏休みを利用してシアトルから帰国された野井さん(H1)や会員のお友達、会員のご主人と、たくさんの外大ファミリーが集い、楽しい会話と笑いが広がりました。
戸川さん(S62A)の楽しい進行で時は進み、小西さん(H6)からは県特産のお醤油とお味噌、交友会に協力してくださる地元の方からは、種なし干し梅のお土産もいただきました。

最後にもう一度、古家さんから歌のプレゼントがあり、心を一つにして楽しい交流会はお開きとなりました。今回出席できなかった支部の皆さま、そして他支部の皆様方、次の機会には、ぜひ支部事業にお越しいただきますよう心よりお待ちしております。

京都外国語大学校友会和歌山支部
山下　智子（S54A）